

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	2173300027		
法人名	有限会社 しましまハウス		
事業所名	しましまハウス 寺林		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町寺林1246-1 (電話) 0578-83-2888		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年10月30

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 15 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	7,500~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 15 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	5 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛騨市市民病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に溶け込み、馴染みの環境、馴染みの人々の中で癒され、安心した暮らしが営まれているグループホームである。玄関を開けて直ぐに感じられたのは、利用者の穏やかな表情、素敵な笑顔であった。職員もまた、明るく生き生きとして働いており、上司と職員の何でも意見を言い合える関係が、職員同士の協調性を育み、力強い信頼関係を築きあげている。開設以来、職員の離職者はほとんど見られず、地元採用者が家庭の負担が少なくなるように、定着を可能にする勤務体制が取られており、地域に密着した理念を重んじる運営者の努力が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は、注意の必要な物品の保管・管理が、主な改善点であったが、対策が取られている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日々のミーティングや会議の場で、課題を取り上げ検討している。すぐに改善できるもの、中・長期を要するもの(浴室の改修等)を把握している。外部評価の結果を踏まえ、自主的にサービス向上に向け、反映していく姿勢を示している。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月毎に開催され、自己評価表・外部評価表を検討課題として提示し、ホーム運営に活かしている。運営推進会議の構成員には、自治会長が関わっていないので、参加してもらえるように働きかけている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは、夕食時間が早過ぎるとの苦情が1件寄せられたが、すばやく対応して解決している。家族には意見や要望を言ってもらうように繰り返し伝えているが、なかなか家族から本音が引き出せない苦労がある。</p>
重点項目 ③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	<p>地域住民の一員として受け入れられ、開設時から「地域と共に」の取り組みが実現されている。日常的に近所の人との往来、豊富な野菜・果物類の差し入れ、みやげ物を互いに配ったりしている。地元の各種行事や会合への参加、保育園・小・中・高生との交流や学校からイベントへの招待等、地域との積極的な取り組みが見られる。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との良好な関係づくりを基本理念として、開設当初より一貫した方針が貫かれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、日々のミーティングで共有を図っている。地元との馴染みのつながりと、利用者の能力維持に向けて実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々が気軽に立ち寄ったり、野菜など日常的に差し入れがある。また、地域の各種行事や会合にも積極的に参加している。自治会には加入していないものの、実態的には密着した交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義をよく理解し、すぐに改善できるもの、中・長期を要するものを把握しながら、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに行われ、自己評価・外部評価の結果も議題として取り上げ、ホーム運営に反映させている。	○	さらに運営推進会議には、要人である自治会長に加わってもらい、地域との連携を更に強め、それをサービスの向上に活かしていける様、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、市が主催する全介護事業担当者会議があり、法令や介護保険費用の現状等の報告を受けたり、広く情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の許可を得て、ホームでの暮らし振りの様子や写真入りの「ホーム便り」を、金銭出納帳と共に定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から、夕食時間が5時では早過ぎるとの1件の苦情が寄せられたが、話し合いの結果解決した。家族には、意見・不満は何時でも言ってもらうように繰り返し伝えている。	○	家族には、家族の組織化、若しくは、年に数回全員集まってもらう機会が提供できるような取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設よりの職員がほとんどで、馴染みの関係が維持されている。家庭の事情を最優先に働くことができる職員体制と、休みの代替補充ができるようになっており、離職を抑える努力がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修を8名修了している。日々のミーティングで、介護技術や、気づきを確認しながら取り組んでいる。	○	法人内研修を計画的に行い、経過観察の方法と、各種記録の取り方等を学習してもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点では、法人内系列の交流はあるが、同業他者との交流には至っていない。	○	他の事業者との交流は、実施面で様々な支障がなければ、今後検討して行くとのことであった。実施に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・職員共に地元の人が多く、何がしの接点を持っていることから、話題づくり、雰囲気づくりに活かしている。老人保健施設より2日前に入所した人も、すぐに慣れた様子が調査時にも見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは、昔の慣わしや、物の呼びかたを教えてもらい感情を豊かに表出ながら支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅したい人、入院中の夫に会いたい人、畑仕事が気になる人など、個々の思いを把握し、寄り添いながら日々の暮らしを支えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身の状態を、職員全員で話し合い、利用者・家族と相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、状態変化に即して適宜行われ、本人・家族とも話し合い同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月1回は、近くの温泉へ出かけている。また、家族の希望により通院移送介助を無料で提供したり、年1回は、富山市へ回転寿司を食べに行く等、特別な外出の機会を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院から、月1回の往診があり、利用者全員が受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、医師・家族と連携を密に取りながら、ホームのできるまで対応する方針である。現状では、医療行為がどうしても生じるので看取りまでは至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重しながら、言葉掛けや否定しない対応に心がけている。個々にはプライドの高い人がいるので、十分に配慮している。記録類は所定の場所で安全に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の流れはあるものの、希望によって入浴を調整したり、時間を十分掛けての食事や、就寝・起床、くつろぐ場所も本人のペースに沿った支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事と配膳準備を職員も一緒に行い、「頂きます」の掛け声で始まり、「ご馳走様」までゆっくりと、会話を交えながら楽しい食事風景が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回の提供であるが、民家改良型の制約もあり、利用者が入浴を楽しめるようにするには、浴室や脱衣場が使いにくく、安全面でも十分な広さが確保されていない。	○	運営者・職員ともに現状をよく理解しており、改修計画があるということである。その実現に期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの山羊牧場へ弁当を持って出かけたり、町の図書館、近くの温泉にもレクリエーションをかねて出かけている。また、ホーム内にはカラオケ設備があり、全員で楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体力的な事情もあり、ホーム周辺の制限的な外出となっている。職員の買い物に同行する機会を日常的に取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、圧迫感を受けないように自由な暮らしに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを備え、職員も理解している。訓練計画と演習は実施されていないが、地域の人達の協力が得られるように、話し合いは行われている。	○	自主避難訓練計画をたて、実施されることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材仕入れの段階でカロリー計算ができており、バランスの取れた食事が摂られている。水分は、散歩の後、入浴の後は欠かさず補給し、お茶は、ペットボトルで、何時でも飲めるように備えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室環境の不便を除き、嫌な臭いもなく、清潔で明るい共用空間が確保されている。表札や掲示物も心地よい工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、カレンダーなどの装飾品が持ち込まれ、居心地に配慮されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。